

当科における内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア摘出術*

柴山元英 高橋育太郎 長尾沙織
川端哲 長谷川一行 太田弘敏
豊川市民病院整形外科

Key words: 腰椎 (Lumbar supine), 椎間板ヘルニア (Disc herniation), 内視鏡下手術 (Endoscopic surgery)

はじめに

内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア摘出術 (MED 法) は、小さな皮切で、筋肉内に鈍的に侵入し、軟部組織への侵襲を低減し、後療法、入院期間の短縮が出来ると言われている。当科では、2000 年以降、MED を導入して行ってきたので、腰痛治療成績判定基準 (JOA スコア)、合併症、手術時間、術後の疼痛、入院日数の成績について報告する。

対 象

症例は、半年以上の術後観察が出来た 33 例で、性別は男 21、女 12、年齢は 19~75 歳 (平均 45 歳) である。ヘルニア高位は、L3/4 が 2 例、L4/5 が 16 例、L5/S が 15 例である。

結 果

JOA スコア: 術前の 7~21 点 (平均 14 点) が、術後は 17~29 点 (平均 26 点) に改善した。

合併症: 顕微鏡手術に変更したものが 3 例 (うち硬膜損傷 2 例) あり、皮切が小さすぎたための創治癒遅延が 2 例あった。合併症は、初期症例に多かった。

手術時間: 平均 118 分 (42 分~213 分) で、出血は 1 例で約 300 g であったが、残り全症例は少量であった。

術後の疼痛: 坐薬の平均使用量は 1.0 個であった。そのうち、坐薬を手術終了時に入れたものが 20 例あった。2 人を除いてそれ以上の鎮痛剤は不要であった。

入院日数: 術後退院までの日数は、10~30 日 (平均 19 日) で、古いスケジュールを使用したので、

後療法は遅めであった。

代 表 症 例

21 歳、男性、実業団野球部選手。

練習中に腰痛出現し、3 か月間、硬膜外ブロックも含めた保存的治療をしたが軽快せず、プロのテストを受けたいので手術を希望した。

SLR は右 30°、筋力、知覚は正常で、JOA スコアは 11/29 点であった。

内視鏡下に左 L4/5 の椎間板摘出術を行った。術後、痛みは直ちに消失し、10 日目で退院した。2 か月後、JOA スコアは満点となり、野球に復帰した (図)。

考 察

一般に、MED 法の利点として、組織のダメージが少ないこと、術後の痛みが少ないこと、後療法が早くできること、斜視鏡で深部の観察が出来ること、などが挙げられている。逆に、MED 法の欠点は、視野が狭いこと、ワーキングスペースが狭く操作が難しいこと、透視が必要なこと、立体視ができないこと、技術の習熟に時間がかかること、などが挙げられている。

当科の MED 法では、JOA スコアで術後成績は術前平均 14 点が 26 点に改善した。これは、従前のラブ法や顕微鏡視下の椎間板摘出術の報告と同等であり、有効な手術療法であるといえる。また、当科で行った顕微鏡視下手術とも同等の成績である。

手術時間は平均 118 分と長めであったが、症例数とともに短縮してきている (最後の 10 例では、

* Endoscopic lumbar disc exstirpation in our clinic.
本論文の要旨は、第 65 回東海脊椎外科研究会学術集会で発表した。